# 中外新聞

外篇

六

西垣文庫
文庫10
7328
6

中外新聞外篇第六篇附言

社會社にて此度編輯せる中外新聞外篇は古き新しきある雅俗ある公私取交せ何にても見るにつけ聞につけ得るに従ひて筆記しするその為れは紀事の順序定らさるそのあり看るその宜く其事情と其時日とに心を用ひて前後新古の區別を含味し錯乱なりと咎むる事なく又強ち新聞の新ならざるを以て名に應ぜずといふ事勿られと云尓

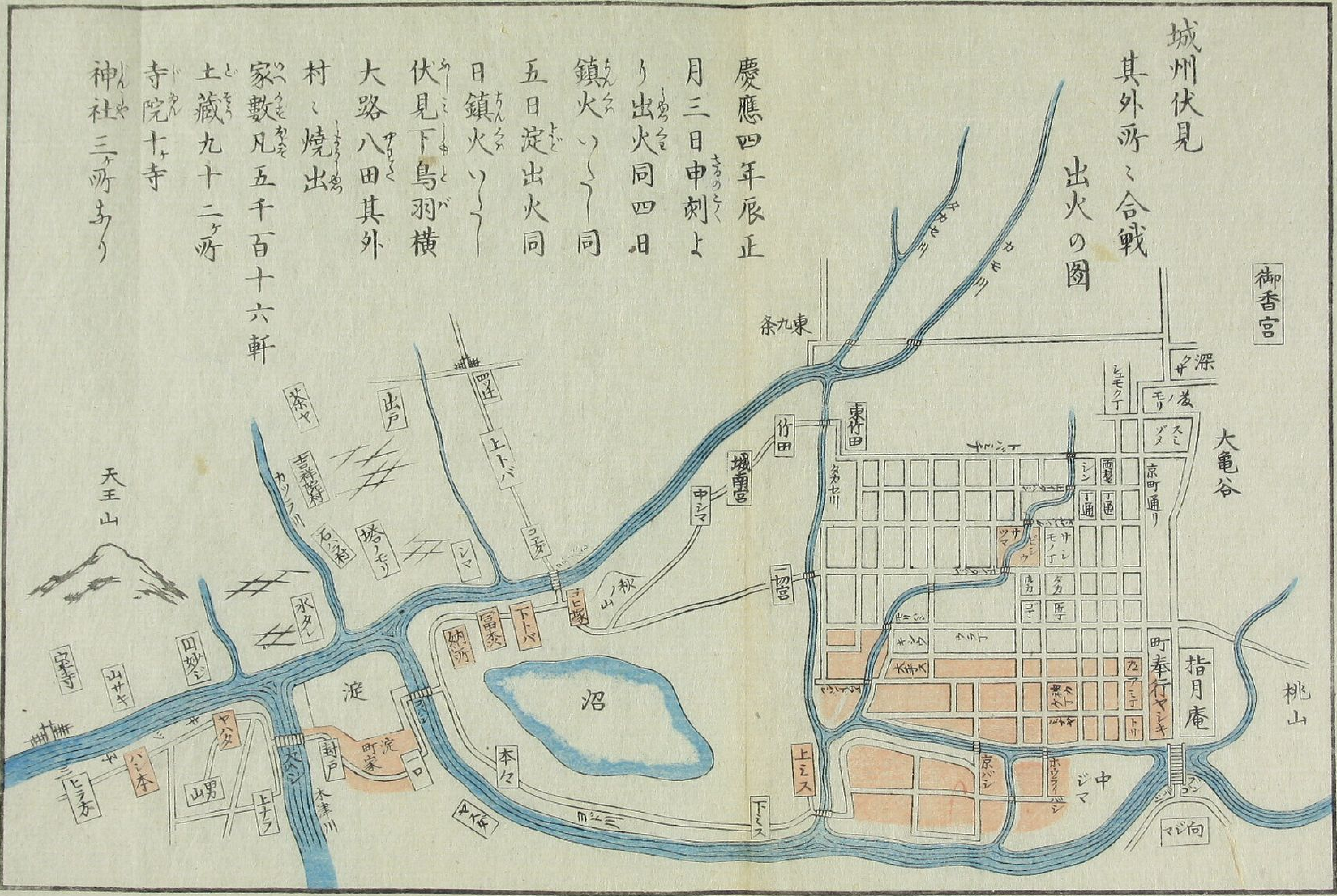
四方同好博覧の諸君何によらず奇聞珍説を得ば速に余が會社に報告して互に同好の意を樂しましめん事を無盡蔵主人冀ふになん

慶應閏四月

無盡蔵會社

# 城州伏見其外所々合戦出火の図

慶應四年辰正月三日申刻より出火同四日鎮火いたし同五日淀出火同日鎮火いたし伏見下鳥羽横大路八田其外村々焼出家数凡五千百十六軒土蔵九十二ヶ所寺院十ヶ寺神社三ヶ所あり



中外新聞外篇巻之六

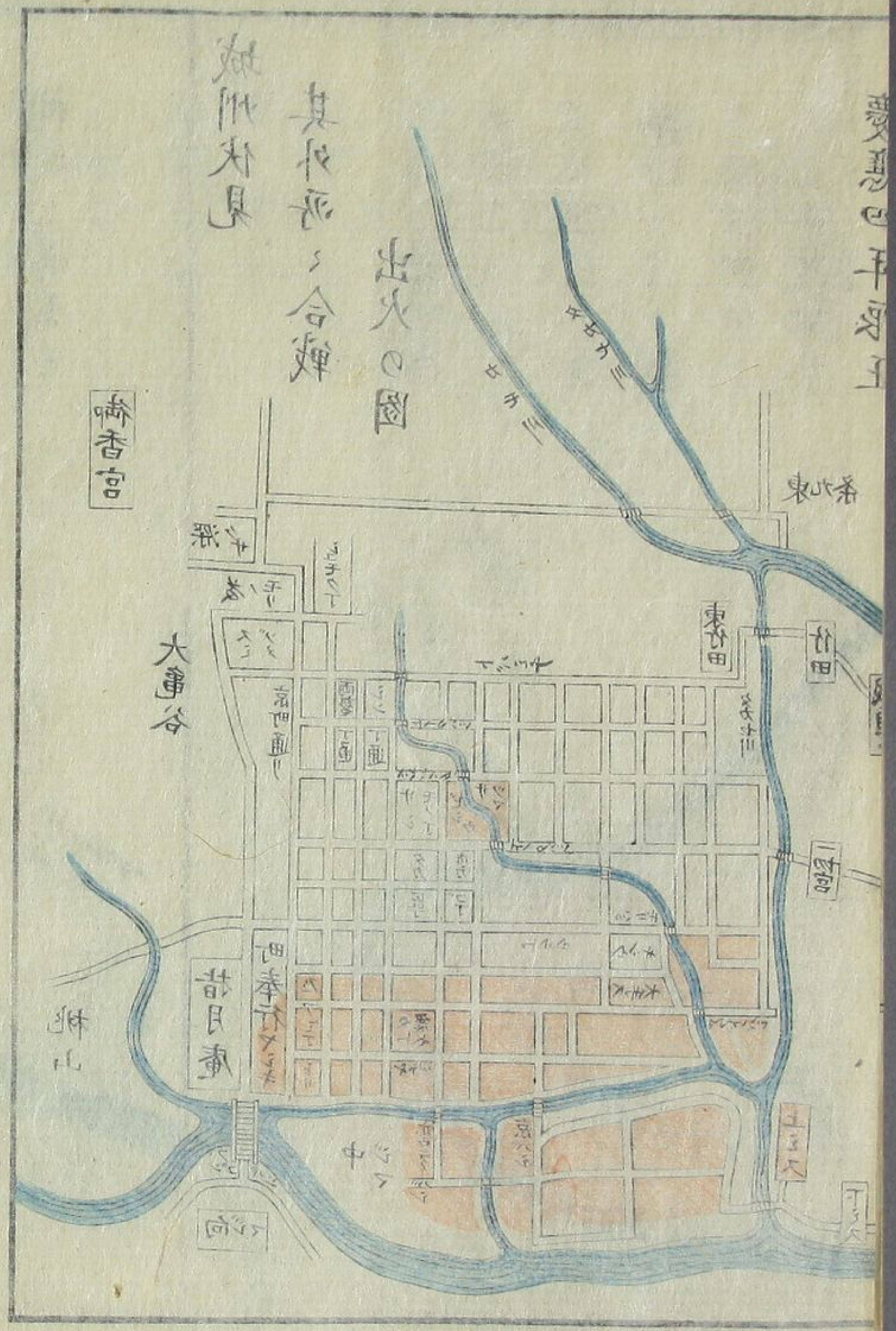
慶應四年四月

○慶應四年正月九日出大坂商人よりの来状書抜

正月三日大坂方多人数伏見へ掛り京都表へ御越相成候途中ニ御番所ニおゐて相咎られ候処　御所へ歎願ニ罷出候由ニ付相咎候ハヽ然らハ飛道具を預置罷出候様ニと彼是論判中薩長土より無法ニ発砲仕候ニ付合戦暫時の由ニ候得共昨七日ニ及ひ見物として罷越候へハ歩兵又士分の死骸三百人計有之其餘死込仕候者も多分有之候

翌四日朝鳥羽横大路辺の合戦ハ大合戦ニ御座候尤京方ハ





薩長土の三藩大坂方ハ歩兵會津桑名高松松山等の兵隊に
て鳥羽横大路淀辺に土俵又ハ四斗樽へ土砂を盛り入籠に
致し相構居り苦戦致され候得共大敗走にて鉄砲大砲玉薬
等多分捨置退軍に相成申候
鳥羽横大路冨の森あゝご村淀辺に大坂方歩兵同善図役其
外士分の死骸多分に御座候就中鳥羽冨の森ちゝぎ村辺の戦
ニて大合戦と相見へ死骸沢山に御座候
淀落城仕候由申上候得共御城ハ無別条城下不残焼失仕候
右此段問合候へバ殿様ハ江戸詰ニて候得共家老始在城の
一家中不残京方へ降参仕候ニ依之別条無之由當時御城へ御座

室宮様山科宮様其外御堂上御三卿様方副将ニて日月の御
旗を御守護有之御陣取被為在候大坂方一昨六日敗走海道ニ
筋へ放火仕大坂へ不残引取申候依之京方先鋒薩長土細川ニ
候人数御警衛ニて出張有之候其外備州阿州の人數彦根并
ニ膳所御加勢として御固有之勢田ハ膳所侯より御固め厳
重ニ被為成候　徳川内府様ハ昨八日御軍艦ニて御帰府と
申事諸兵隊ハ昨今日の間ニ不残紀州へ御引上け相成申候
〇次青眼居士韻　三泉居士
欽君為國起諸賢無用吾曹便泰然小院沈々春晝永牀頭笑捲
十三篇

○題しらず

つひにかくみだれそめぬは行しきにかへらん民くさいかに安からむ

島村利鐘

悉召程

○京師へ遊学せし或一書生よりの書翰書抜

去る二月廿日江戸出立道中滞なく廿三日駿河府中宿一泊の節橋本柳原両鎮撫當宿迄下向の確説承知いたし同廿四日藤枝の宿にて薩長の人數洋服を着し手銃を携へ東下せるにゆふ日坂に至れば紀州の勢駅中に充満し掛札皆御親征の御用とこゝろし有之廿五日掛川を発し袋井に至る肥後備前の兵充満せり天竜川を渡るに紀州両鎮撫の行軍に逢ふ錦の直垂に立烏帽子騎馬にて藤堂の兵之に従ふ皆赤地の錦の短冊を以て袖印とし白に黒く菊の紋を染出したる旗二三流を持せる濱松吉田の兵を見送りとして之を護衛せる鎮撫の後に一ツの箱を荷ふ即ち鎮撫総督府朱印と記し有之同廿六日今切の渡しを過ぎ吉田駅に至りしに親征の大都督府有栖川帥宮熾仁親王本陣をさへ給ひて筑前の大兵之を護衛せる甚厳重なり往来の士人を探索せる事亦厳敷は張番せる三宅備後守の兵なり御本陣の菊の紋付たる紫の幕を引渡し錦の御旗三流を立てらる廿八日宮に至りしに風抵宜

ならんとして舟を出さん已を得ずして一泊し漸く晦日に京師に着に此日英人参内を許され其旅宿南禅寺より三条の畷を過る時突然として一人の男子出来り刀を振ひて英人四五人を傷付又警固の武士数人を傷けたり英人は深手にて死するにも至るべししかるに男子は事の成ざるにより自殺して死を警固の士其首を取り去る此日見物の老若の群集せしなれば其騒き名状すべからずと云々